

2011年8月6日

【文字の学校シンポジウム】電子書籍の組版を考える

電子書籍における組版の 何を考えるべきか

本間 淳

(フェリックス・スタイル)

@2SC1815J

2SC1815J@gmail.com

はじめに

- 自己紹介
 - 本業は組版とは無関係。
 - 紙の本での読書好き。
 - 二年前の秋、Android携帯を買ったら、まともに「読める」アプリが無かった。
 - 青空文庫等のテキストを縦組み表示するアプリ「縦書きビューワ」を自作し、無料公開。

縦書きビューワ

FARCEに就て

ある、このことである。私は古典に通じてはゐないので、私の目に触れた外にも幾多の滑稽文学が有ることとは思ふが、日頃私の愛読する数種を挙げて、「狂言」、西鶴（好色一代男、胸算用等）、「浮世風呂」、「浮世床」、「八笑人」、「膝栗毛」、平賀源内、京伝、黄表紙、落語等の或る種のもの等。

一体に、わが国の古典文学には、文学本来の面目として現実を有りの儘に写実することを忌む風があつた。底に一種の象徴が理窟なしに働いてゐて、ある角度を通して、写実以上に現実を高揚しなければ文学とは呼ばない

7

追い出し、追い込み、行末揃え、連続する約物の空き量調整、etc.

李陵

李陵
中島敦

一

漢の武帝の天漢二年秋九月、騎都尉・李陵は歩卒五千を率い、辺塞遮虜鄣を發して北へ向かつた。阿爾泰山脈の東南端が戈壁沙漠に没せんとする辺の礪礪たる丘陵地帯を縫つて北行すること三十日。朔風は戎衣を吹いて寒く、いかにも万里孤軍來たるの感が深い。漠北・浚稽山の麓に至つて軍はようやく止營

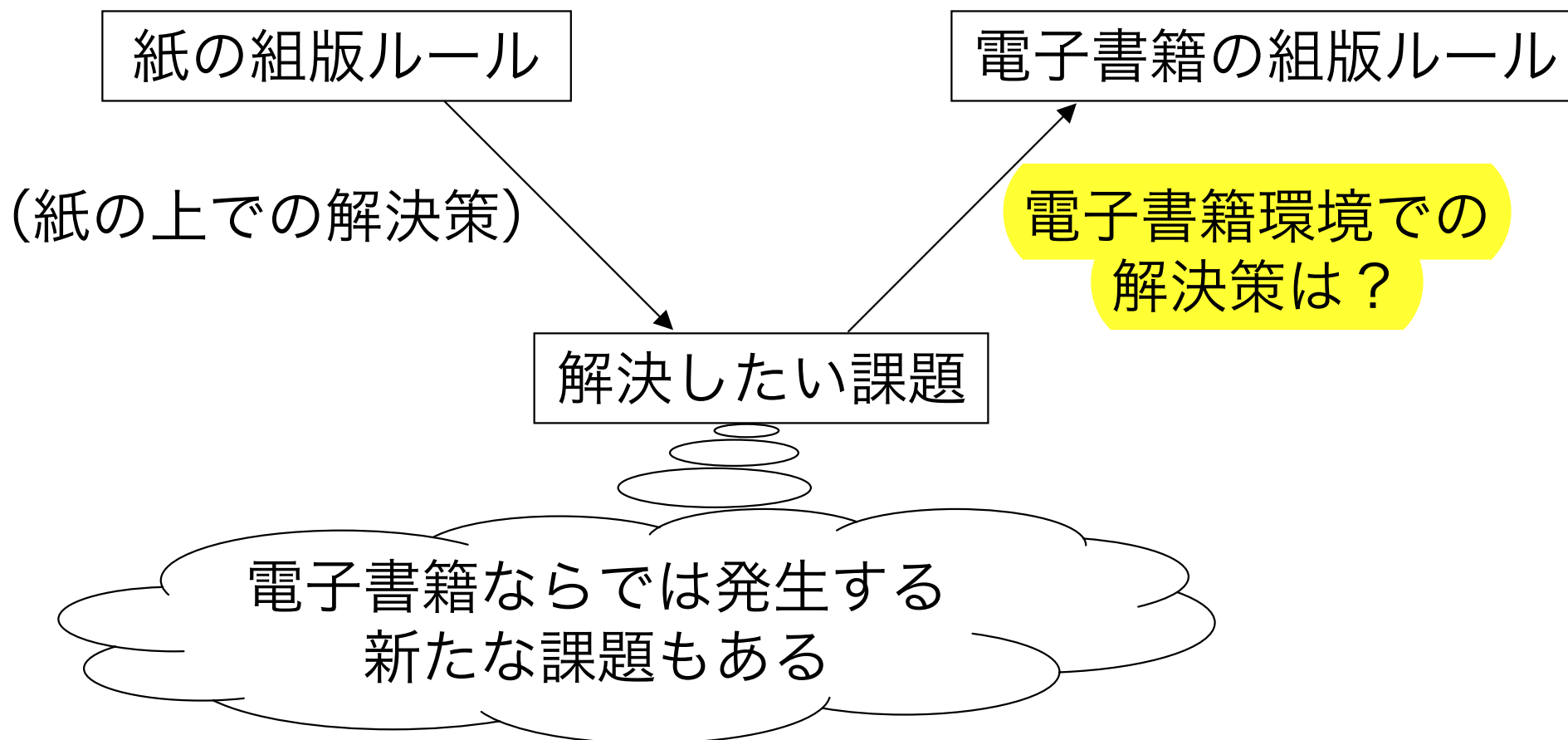
1

素人の素朴な疑問

- 組版：おもてなしの技術（気遣いの技術）
 - 読みやすさや分かりやすさ、美しく見せることのバランス
- 電子書籍：
 - 本棚風の操作画面？ページめくり風アニメ？
 - これら以外の部分で、組版としてできる気遣いがあるのではないか。
- 紙の書籍の模倣から、電子書籍の特質を生かした組版の探求へ。

電子書籍における組版とは

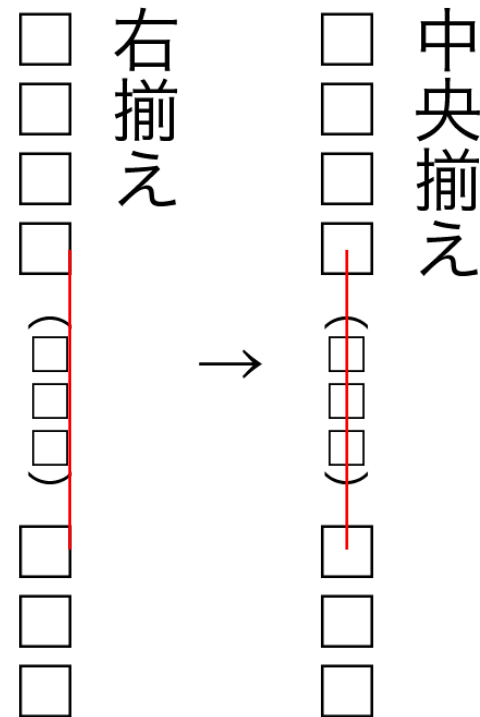
- 考え方：



電子書籍になって消滅する かもしれない組版ルール

- 紙の上での解決策として存在している組版ルールで、紙の制約から自由になったときには理由が失われるものはあるか。

- 活版→写植での類例：



電子書籍になって登場する かもしれない組版ルール

- いくつかの参考例：
 - 禁則処理の拡張
 - 時間軸方向の利用
 - 3Dディスプレイにおける紙面垂直方向の利用
 - アクセシビリティ向上
etc.

禁則処理の拡張(1)

- 禁則処理
 - 意味としてひとまとまりのものが離れて置かれると分かりにくくなるという課題への解決策。
- この課題に対して、他にも解決策はないか？
- 禁則文字
 - 語以上の意味のまとまりに基づく禁則もありでは。
- 意味としてひとまとまりの部分は、なるべく離さず、意味の切れ目で改行されるようにしたい。

禁則処理の拡張(3)

- と話を
をしていた□□□□□□□□□□□□□□□□□□

- と話を
していた□□□□□□□□□□□□□□□□□□

- と
話をしていた□□□□□□□□□□□□□□□□□□

禁則処理の拡張(4)

- ページが変わる
 - 行が変わるだけよりも強い分断をどのように扱うかという課題を生む。
- 京極夏彦氏：一つの文がページをまたがないように、判型が変わると本文に手を入れて改行位置を操作。
 - 文がページをまたがないという「禁則」ルール

禁則処理の拡張(5)

- 意図せずに発生した視覚上のリズムをなくしたい：
句読点が行送り方向に連続することを避けたい。

- □□□□□、□□□□□□□□□□、□□□□□□□。□
□□□□□、□□□□□□□□□□、□□□□□。

- □□□□□、□□□□□□□□□□、□□□□□□□。
□□□□□□□、□□□□□□□□□□、□□□□□。

時間軸方向の利用(1)

- 本文：基本的に連続的な読み方（語りと同じ）
 - ルビ：同時並行的な読み方を提供
 - 注や図版：非連続的な読み方を提供
- 語りが文字になり、紙に組版された。
 - 語り手による時間進行から解放され、
新たな次元と読み手による時間進行が獲得された。
- いい工夫だが、
親文字よりも異常に長いルビ → 読みやすさを損なう
読者によっては不必要なルビ → 邪魔になる

時間軸方向の利用(2)

- 電子書籍では、時間軸方向に変化する表現が可能。
- ルビ表示レベルの読者による切り替え
 - レベル0 : 最小限のルビ
(筆者による作品表現の一部としてのルビのみ)
 - レベルi : 表外音訓を含む語にルビ
 - レベルj : 小学校k学年以上で習う漢字にルビ
 - レベルm : 最大限のルビ (総ルビ)

 - ある単語が最初に出現した箇所にのみルビ
 - すべての箇所にルビ

時間軸方向の利用(3)

- インタラクティブなルビ
 - 必要性の高くないルビは、分からない人だけ単語を長押しすると読み方や意味が表示される機能で代替できる。
 - 能動的に行動しなければ情報が得られない点で、読書への集中を妨げるか？
 - 一定時間注視した場所の読みや意味をポップアップ表示するのならばOK？

時間軸方向の利用(4)

- インタラクティブな注
 - 例えば後注を用意し一覧性を確保しつつも、語句や合印をタップすることで、移動せずに注が確認できる形式など。（ツールチップ表示）
- ルビ : パラレルにハモって読まれたい
- 注や図版 : 非連続的な読まれ方 ← こちら向き

時間軸方向の利用(5)

- 文字そのものが動きを持つ可能性。
 - 躍る文字。動く絵文字。文字自体が変形していく、など。
- **キネティック・タイポグラフィ**
 - これまでは動画やAdobe Flashなどで多く用いられてきた。
 - 文字が、どんっ、どんっとしてきたり、動き回ったりすることで伝える。

時間軸方向の利用(6)

- 文字・行・セリフなどが少しずつ表示される形式。大事なセリフの前でためをとるような、時間軸方向でのルールが生じるかもしれない。
- ゲーム（の表現）と似てくる？ノベルゲーム？

3Dディスプレイにおける 紙面垂直方向の利用

- 紙面垂直方向を用いた組版表現
 - 圏点による強調の代わりに、飛び出して見える。
 - ルビや注などが、本文よりも手前や奥にあって、斜めから見たときにのみ目に入る。
 - 3Dキネティック・タイポグラフィ。 etc.

アクセシビリティ向上

- ささまざまな理由により集中力が低減した状態でも読書を楽しめるように、組版としてサポートできることはないか。
 - 文脈を追いやすくするための視覚的工夫など。
 - 短期記憶を補助してくれる仕組みなど。

電子書籍は書き手の表現に 変化をもたらすか

- これまで見てきたようなものは、果たして書き手に必要とされているだろうか？
- 紙で本を読むことに親しんだ立場からは、自然なものもあれば「キワモノ」に見えるものも。
 - 普通に紙の書籍を再現してくれた方が落ち着く
- 作品自体が、あまり前の部分に戻らなくても分かりやすい書き方に変化していく、という意見も。
 - ナビゲーションの悪さを作品がカバーしてしまう？
- 実際に利点があれば徐々に使われ、慣れていく？

おわりに

- 電子書籍においては、仕様策定、ビューワ開発など、これまで以上に組版の技能を活用する機会がある。
- 紙の組版でも、さまざまな試みがなされ、あるものは消え、あるものは生まれ、あるものは今に残っている。
- 電子書籍においても、さまざまな試行錯誤から、電子書籍の特質を生かした、次世代のスタンダードとなる配慮（組版）が登場することを期待！